

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。〔6番 伊藤 麗君登壇〕

○6番（伊藤 麗君）

清新クラブ、伊藤 麗です。

初めに、2月23日に起きた島道雪崩災害で犠牲になられた方にご冥福をお祈りし、ご遺族、島道の皆様にお悔やみ申し上げます。

それでは、発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、糸魚川市内に在住する外国人のサポートについて。

1月7日にビーチホールまがたまで開催された、糸魚川国際人材サポート協会主催の「防災ワークショップ」に参加しました。

市内に滞在、在住している外国人の方は増加傾向にあり、現在約450名。企業などの研修生が、そのほとんどとのこと。このワークショップを通じて、市内に在住する外国人の暮らしを支援する必要性と重要性を感じました。外国人も地域の一員であるという視点から、以下質問します。

(1) 防災教育を外国人向けに行うことについて、市としてのお考えを伺います。

(2) 医療機関を受診する際のサポート体制は、十分か伺います。

(3) 外国籍の児童とその保護者に対して、しかるべきサポートがなされているか伺います。

(4) 外国人技能実習生に対して、受け入れる側である企業にも努力が必要と考えますが、市として企業側の対応を把握しているか伺います。

(5) 外国人の皆さんが、糸魚川で生活する上で抱える不安や疑問を聞き出すような取組はされているか伺います。

2、コロナ禍においても子育てしたいまちづくりについて。

当市においても、年明けから新型コロナウイルス感染症患者が増えました。それに伴い休校、休園の対応がなされたことについて、お子さんはもちろんご家族にとっても不安が大きかったこととお察しします。ウィズコロナ時代の子育て支援の中で大切な視点の一つは、子育て世帯を孤立させないということではないでしょうか。妊娠期間から子育て期間を通じて、どの世帯も「安心して子育てができる」、「孤立させない」という視点から、以下質問します。

(1) コロナ禍前後で、糸魚川総合病院での出産件数の推移と産婦人科の持続可能性について、市の考えを伺います。

(2) 市内における病児保育の利用状況を伺います。

(3) 休園、休校措置を講じた際、トラブルや問題などの報告があったか伺います。

(4) 小学校休業等対応助成金の周知状況、利用状況はどのようになっているか伺います。

(5) 妊娠・出産・子育てに関わる相談事をLINEで受け付けるお考えはあるか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、市民と同様に外国人の方も、防災講座や訓練などを通じて、防災力を高めることが必要と考えております。関係者と連携し、地域や企業も巻き込みながら、今後も継続して取り組んでまいります。

2 点目につきましては、糸魚川国際人材サポート協会と上越国際交流協会に医療通訳を委託しており、乳幼児健診等にご利用いただいております。

3 点目につきましては、糸魚川国際交流協会と連携し、学校において日本語の個別指導を行っております。また、学校生活等における保護者の困り事に対しても個別に相談を受け、支援を行っております。

4 点目につきましては、市内企業においても、適切に対応していただいているものと考えております。

5 点目につきましては、糸魚川国際交流協会と上越国際交流協会に外国人生活相談業務を委託し、対応しております。

2 番目の 1 点目につきましては、元年度で 1 5 0 件、2 年度で 1 2 1 件、本年度 1 月末現在で 9 5 件となっております。

産婦人科の維持に向けて、糸魚川総合病院と協力し、引き続き富山大学へ医師派遣の要望を行っております。

2 点目につきましては、昨年度で 2 7 6 人、本年度 1 月末現在で 4 5 8 人となっております。

3 点目につきましては、今のところ大きなトラブルは報告されておりませんが、県の対応方針の変更に伴い、保育園・学校や保護者が戸惑う場合もあるため、丁寧に対応してまいります。

4 点目につきましては、ホームページや企業向けのメールで周知しており、保護者から相談があれば対応しております。

なお、利用状況は詳細が公表されておりませんが、助成金を活用した有給休暇の取得も確認いたしております。

5 点目につきましては、相談のきっかけづくりとして有効な面もありますが、情報流出のおそれも考えられることから、よりセキュリティの高い手段を検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6 番（伊藤 麗君）

それでは、質問番号 1 について、再質問いたします。

糸魚川国際人材サポート協会（I I S A）様のご協力、市内に在住している中国語、英語、ベトナム語、タガログ語を利用している 1 0 名以上の皆さんにお話を伺い、頂いたお声と平

成26年度に実施されたアンケート結果に基づいて、2回目の質問を行います。

(1) についてです。頂いたお声をご紹介します。

主人は地元の人なので、地元の複雑な人間関係が分かっているが、自分自身は近所の人とは話すことがないので、もしものときにどうすればいいのか分からない。1人で住んでいる外国人は、地域の事情まで分からないので、防災の備えや避難などが難しいと思うというお声を頂きました。

そもそも地震や津波など、災害の概念自体ない方、防災教育などを受けたことがないという方も多くいることが分かりました。糸魚川が、災害の多い地域だということそのものを市としても伝える取組が必要だと考えますが、それについてお考えはありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように糸魚川は、本当に自然が豊かで、逆に、半面自然災害が幾らでもあるということで、本当に災害の備え、防災の意識、こういったものを高めていかねばならない、そういう地域だと思っております。

そこで、まず市民については、そういった気持ちで広く防災意識を高める取組をしてみたいと思います。逆に外国人の方についてなんです、これはやっぱり同様にやってきたつもりではありますが、やはり十分に伝わっていない、また十分な機会がつかられていなかった。そういった感覚も持っております。

このたび国際人材サポート協会様等とお声がけをいただいて、一緒に防災ワークショップをやらせていただいたりした中で、やはりこういったのを地道にやっていくことが大事だということ、それから、通常使っている資料であっても、日本語に振り仮名を振ったりとか、あるいは、より簡単な言葉で説明するとか、そういったことが非常に大切だということ考えております。

こういったところを意識しながら、今後も外国人に向けてしっかりと防災の意識を高める取組をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ご答弁の中に簡単な言葉でという言葉があったんですけども、私も同じように考えております。11月7日の防災ワークショップにおいては、民間主導で行われた例でしたが、市の出前講座、防災講座を簡単な日本語で行うなどして、逆に、市から民間の方に協力を仰いで行うというのはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えします。

やはりより簡単な言葉、もう少し言いますと小学生でも分かるような言葉、これで説明してあげる、そういったようなことが大事かなというふうに思っております。さらに、やはり私どもの防災講座等だけではなくて、日頃の生活の中で、やはり周囲の協力、周囲の声かけ、そういったものも非常に大事だなというふうに思っておりますので、地域、あるいは企業の皆様と連携し、また協力いただきながら広げていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、（2）です。またお声をご紹介します。

病気になったときに、どこにクリニックや病院があるか分からなかった。日本人に連れていってもらったが、自分の状態の説明と処方された薬がどんな薬なのか理解できなかった。問診票や渡される書類が、多言語対応されていないので、1人では病院に行けないというお声から分かるのは、通訳のサービスが糸魚川市にあることを医療従事者側にも利用者にも知られていないということです。

特に、入院時の通訳が、無料で受けられることが必要という声もありましたが、IISAの通訳は、利用者負担なく利用できます。市内病院と利用者どちらにも通訳サービスの周知が、もっと必要と考えますが、市の広報などで定期的に取り上げることと、市内の病院に個別に周知することは可能ですか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

病院にサービスの存在をしっかりと知らせていく。これについては可能でありますので、そういったやり方につきましては、また検討していきたいということでもあります。そういった形で、しっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

では、（3）に入ります。入園や入学時の書類が、全て日本語なので、とても大変だった。主人が全てしたが、仕事でいないときは、園や学校からのお知らせの紙が大事なものかどうか分からなかった。自分が母親なのに、駄目な親のように感じてしまうという、ある意味ちょっと悲しいお声を頂戴いたしました。

お便りの表記方法の工夫、通訳の派遣、日本語教室のご案内などを、ほか担当課とも連携しながら対応に当たる用意はございますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

通常、市として外国籍のご家庭や、あるいはお子さんを受入れ、転入手続を行う際には、こども教育課の担当が面談をしながら、必要に応じて通訳を交えて、就学についての説明や必要な支援について把握いたしております。その上で学校のほうにつなげるようにいたしております。

こども教育課としては、糸魚川市国際交流協会と連携しながら、学校における日本語の個別支援を行ったり、また、学校と連携しながら、学校としてできる支援を行ったりするように指導しているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ほかにもご意見を頂いたんですけども、困り事の内容としては、学校生活における習慣や文化の違い、対応する職員の中にある固定概念による誤解から、適切なサポートが受けられなかったというものでした。本当であれば、それぞれの母国語でサポートするのがベストだと思いますが、それがかなわないのであれば、通訳を入れること、バイリンガル、異文化のことにに関して理解を深めるための職員や教員の研修が必要ではないかと考えますが、これについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

学校のほうに、実際に受け入れて、学校の職員、教務主任とか、あるいは学年主任、担任等が面談をする中で、実際に学校生活の中でどのような支援が必要なのかというのをできる限り把握するように、外国籍の皆さんに寄り添う形で面談を行いながら把握して、支援を行っているところです。

ただ、学校ができるところも限りがありますので、学校ができないところにつきましては、教育委員会のほうに、こども教育課のほうに、どのようにしたらいいかというふうなことで、随時、連絡を入れ、こちらとしても関係各課と連携しながら可能な限り支援できるように取り組んでいるところであります。今後も、外国籍のお子さんたちの就学に支障がないように、家庭に寄り添いながら支援を行っていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

次の質問にも関わってくるんですけれども、お子さんの具合が悪いとき、コロナの流行状況もあり、保育園や学校側から詳しいヒアリングにうまく答えることができなくて困っているというお声も頂戴いたしました。

保育・教育現場においても、通訳を積極的に利用することを現場に指導する必要性が私も大切だと考えています。これについて、教育長のお考えをお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

齋本教育長。〔教育長 齋本修一君登壇〕

○教育長（齋本修一君）

お答えいたします。

言葉の理解ができなくて、大変不安がある。それは非常に丁寧に対応しないといけないなというふうに私も日頃考えています。

私も現場時代に、外国籍の子供を預かるときに非常に苦慮した経験があります。そのときに、たまたま国際交流協会の方が、通訳的な立場に立っていただいた関係で、非常にその後の慣れといいましょうか、いろんなことの悩み事の相談にもつながったりなどして、国際交流協会の方がキーパーソンになって、いろんな面でフォローしていただいたよい経験があります。今後も学校生活を進めていく上で、不都合なこと、悩み事、よく分からないことというふうな部分については、関係のいろんな方々がおられると思いますので、ケース・バイ・ケースに応じながら、いろんな方々から協力いただいて、少しでも糸魚川で安心して、いろんな国の子供たちが安心して学べるように、そして保護者の不安に少しでも寄り添えるような、そんなふうな雰囲気づくりも含めて、人的なつながりというふうな部分をもうちよっときめ細かく進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

引き続きよろしく願いいたします。

保護者の方から、非常に細かい内容で、確かにこれは困るなというものもたくさんお伺いしましたので、後日、私から担当課に直接お伝えしたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、（４）です。単なる労働力として、外国人実習生を見るのではなくて、生活する上で必要なサポート、場合によっては行政に支援を要請するなど、ここでも連携が必要だと考えます。企業側からしかるべき支援の要請があり、それに応えたという実績はありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

当課におきましては、企業から外国人の住居の相談を受ける中で、自社の従業員寮を整備する際の助成制度を紹介いたしまして、これまで2社からご利用いただいた実績がございます。

また、具体的な要請ではありませんけれども、企業から外国人材の受入れに関する相談をいただいた際には、必要に応じまして新潟県が設置します外国人材受入れサポートセンターを紹介するなどして、対応している状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

まず、相談があったということが分かったので、少し安心したんですけれども、どちらも、どちらかといえば受入れ前の相談事だなというふうに感じました。私が心配しておりますのは、受け入れた後、その外国人の皆さんの生活する上での困り事を企業側から、できれば抽出していただいて、行政に届けてもらえるような、そういう相互での連携が必要だと思ってるんですけれども、ほかにその後の生活面でのご相談とか、企業側からは頂いていますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

外国人技能実習生の受入れにつきましては、基本的には受入れ企業であったり、支援団体のほうで対応することになっておりますが、先ほども申しましたが、必要に応じまして、市といたしましても生活について対応する用意はございますので、相談を受けた際には、その内容に応じまして、上部の機関を紹介するなり、また、必要な対応を取るなりということでの対応は、していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

お伺いしたいんですけれども、外国人実習生の皆さんにおいては、やはり仕事で糸魚川市にいらしているんだと思いますので、心配していることとして、コロナの影響で人員削減が必要になって、外国人実習生の雇用の継続が困難になってしまった事例は、当市においてありましたか。また、そういったご相談はありましたか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

外国人技能実習生の在留の数値、人数を見ますと、コロナ前よりは確実に減っている状況でありますけれども、これはコロナ禍による渡航制限などにより、受入れができなくなったというふうに考えておりまして、業績悪化等によりまして、解雇された例はないというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

では、次の質問です。（5）に移ります。

平成26年度に在住外国人アンケートが実施されておりますが、回収率が17.3%と非常に低くて、回答者の属性に偏りがありました。より広くからニーズを抽出できるような工夫が必要と考えます。

先ほども少し申し上げたんですけれども、企業に協力していただき、雇用している外国人実習生から、確実にアンケートを記入・回収するような取組をしてはいかがでしょうか。お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

お答えします。

今ほど議員の言われる企業に対してというのも一つの手法だと思っております。私どものほうも、国際交流協会であったり、いろんな場面で人材サポートの関係も、IISAですけれどもありますので、そういったところでも少しお話をしながら、どういったアンケートであったり、意向を酌み取るということができるのか、検討してみたいというふうに考えております。少し、すぐ取り組むというところはなかなか難しいかもしれませんが、しっかりとやっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私も11月7日の防災ワークショップに参加させていただいて、英語圏の方が意外と少なくいらっしやるということに非常に驚きました。通訳の先生のはずなのに、日本語で講座を行っていたんですね。その理由が、やっぱりベトナムの方もいらっしやったり、英語が原語ではない方もたくさん参加していらっしやった。その背景で、英語ではなくて簡単な日本語で講座が進められておりました。ですので、恐らくアンケートと取るときも、どの言語で取っていくのかなど、たくさん考えることがあって、非常に難しいことだとは思いますが、できるだけ広い皆さんからご意見頂けるような形で、引き続きお声を集めていただきたいと思います。

糸魚川に在住している外国人の方に寄り添うということが、UIターンの方に寄り添うことと、意味合いとしては、ほぼ同じだと考えています。行政からのお知らせに、英語翻訳がついていることが、ほぼない。災害やコロナ、医療情報など、外国人向けの発信がないなど、今回の聞き取りで、外国人の皆さんもたくさんの不安を抱えていらっしやることが分かりました。期間限定の仕事で暮らしているとしても、せつかく糸魚川とご縁があったのだから、できれば糸魚川はすばらしいところだった。友達もできた。楽しかった。そう思って暮らして、生活してほしいと思っております。



そのためには、求めていることを知り、暮らしにくさを改善していく取組は、継続的に必要です。平成26年度のアンケートでは、対象者が279人だったのに対して、令和3年度時点では、416人に増えていることから、伝え方の工夫をした上で、再度アンケートを実施すること、IISAや、糸魚川国際交流協会の活動の周知徹底をご提案いたしまして、質問番号2、コロナ禍においても子育てしたいまちづくりについてに移りたいと思います。

(1) についてです。この質問の背景といたしましては、出生数の減少に応じて、産婦人科の存続も経営的な意味合いで、当然難しくなるだろうと予想したからです。基本的な考え方は、出生数に応じて存続の可否が決まってくる。その理解でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

産婦人科の存続にとって、今ほどありましたように出生数というのは、経営の面からすれば大変重要な要素だというふうに考えます。

私、この職に就く前、前任者からは糸魚川市では、年間200件の出生というのは必要だよということを引継ぎとして受けておりますけども、ここへ来まして、2024年から始まる医師の働き方改革というのが、これもっと重要で、存続を左右する内容でないかなというふうに理解しております。

少し紹介させていただきますと、医師の働き方改革というのは、医師1人、年間960時間の残業に制限されるということですので、24時間の診療体制を維持しようとした場合、最低6名程度の医師が必要になってまいります。今後、特別な例外規定というのがあれば、糸魚川市の糸魚川総合病院については存続できるかと思っておりますけども、そうでない場合、糸魚川市における出産に大きな影響を及ぼすものというふうに懸念しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

出生数をお伺いして、今年度まだ100件に満たないというのを、私も事前にお伺いしておりましたので、非常に厳しいなというふうには率直に感じました。

今、お話によると医師の働き方改革のお話が出てきたんですけれども、私も医師の働き方改革の視点で、産科の維持には6人から8人の常勤医が必要だと、糸魚川出身の産婦人科医の先生からお聞きしました。それであっても糸魚川市としては、産婦人科の確保を病院側に求める努力をしていくという理解でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほどありましたように大変厳しい状況というのは認識しておりますけども、産婦人科が糸魚川

総合病院の診療科がなくならないように、まずは糸魚川総合病院と協力しながら、富山大学の医師派遣を働きかけて、診療科の維持に取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

産婦人科がなくなると小児科もなくなるという通説もあるそうです。市内に産婦人科を含め、入院可能な小児科があることは、子育て世帯にとってはとても重要なことで、ましてや、このコロナ禍においては、大きな意味合いがあると考えます。

6人の常勤医を配置するには、この規模での出産取扱い件数では容易ではないということは理解しておりますが、行政には諦めず、病院、県、多方面に働きかけを続けていただきたいと思います。市長からも、改めて産婦人科と小児科の存続について、お考えを伺わさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、やはり糸魚川市にとって、今、産科が一番大変な状況にあります。それに対して、今、厚生連、糸魚川総合病院と一緒に富山大学に働きかけを行っておりますし、新潟県においても、やはりそのような要望をさせていただいております。各市町村にとって、やはり産科がなくなるということは、自治体自体が非常に危機に面する状態であるということを説明しながら行ってますし、県議会においても、そのような要望もさせていただいております。

非常に、そしてさらに働き方改革によって、今、課長や議員のご指摘のような環境になっておるわけでありまして、本当に危うい状況にあることは間違いないわけでありまして、だからといって、じゃあ諦めていいかという、そうではないわけでありまして、前段で申し上げたとおり、しっかりとその辺を申し上げていきたいと思っておりますし、これもやはり県や厚生連だけではなくて、本来やっぱり国のほうにも言わなくてはいけないのではないかなというぐらいの大きな課題と私は捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

最後まで諦めずに、要望のほうを続けていただくことを私からもお願い申し上げます。

次の質問に移ります。

新型コロナウイルス感染症流行状況から、保育園や学校の登園・登校の判断基準が厳しくなっています。例えばせきや鼻水が出ていたら、一度かかりつけ医に受診し、風邪と診断を受けたら登園できるという具合です。

病児保育の利用が必要な家庭が増えることを予想していたんですけれども、先ほどのご答弁の中

に大分増えているなというふうに感じました。

そこで、受入れ人数を増やすことなど、対応の検討はされていますか。お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

病児保育室の利用状況につきましては、先ほどの市長答弁のとおり、去年は少し落ち込みましたけれども、本年度は平年並みに利用者数が戻っております。

病児保育室の定員は5名となっておりますけれども、状況に応じて職員も確保しながら、定員を超える受入れも実施しております。利用児童の病気の種類、例えば隔離が必要な場合などもあるために、その都度、受入れ可能数は異なってきます。かといって常時定員いっぱいの利用があるかといえ、そうではないということから、職員確保といった課題もあるということで、状況を見て、検討していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。数字の比較で大分増えたのかなというふうに思ったんですが、平年に戻ってきたということなんですね、分かりました。

実際に定員を超えて受け入れている状況もあるということなんですが、実際にお子さんにけががあったりだとか、そういうことが起きてはいけないと思うんですけども、どのくらい定員5名のところを超過して、受け入れることが最大可能なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

病児保育室については、現在委託しているため、やっぱり委託先の職員の確保だったりということにもよりますけれども、ただ単純に基準に照らし合わせると、面積要件だったり職員の配置というところを考えると、やはり10人弱というところが限度かなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

承知いたしました。

次の質問に移ります。

児童の間で、いじめや嫌がらせなどは起きていませんか。

また、それらを未然に防ぐ取組として、現場ではどのように対応がなされていますか。お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

実際にお子さんが感染した場合、それによって、うわさ話というふうな形での残念な事案というのは報告されております。

ただ、それについては初期対応に重点を置きまして、家庭を含め児童生徒に対して、そういった中傷等が起こらないような指導を行っております。

また、そういった残念な事案が起きないように、日頃から未然防止のための生徒指導上の子供たちへの指導といったものを徹底するようには、ずっと学校のほうには指導してきておりますし、学校のほうでも重点的に取り組んでいるというふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

うわさ話などでということだったんですけれども、教員の目の届かない場所、例えばSNSを使ってだとかゲームの会話の中でだとか考えられると思うんですけれども、そういう部分、見えない部分の指導は、どのようにされているのでしょうか。お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

確かに議員がおっしゃるとおり、事案の中に出てきたものについて、よく聞きますと学校内よりも学校外での事案のほうが顕著であります。そういったときには、できるだけ情報を早く共有しながら、家庭ぐるみでそういったことについて是正するように指導を行っているところであります。

また、学校における指導については、学校内だけにとどまらず、家庭と連携しながら校外においてもそういった誹謗中傷がないような形で啓発を図っていくというふうな取組を行っているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

新型コロナウイルスの流行によって、保健所の対応も逼迫し、検査対象を限定するなど、変わってきたかと思えます。濃厚接触者の指定は、現在、学校、教育委員会、こども課、本人に委ねられていると理解しているんですけれども、その理解でよろしいでしょうか、確認です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

議員のおっしゃるとおり、このたび濃厚接触者の特定につきましては、保健所のほうの指導を基に、学校のほうが教育委員会と相談しながら特定をしているということで、学校のほうに特定の主体が移るという形になっております。こども教育課のほうで学校からの相談に乗っているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

現状のクラスターの発生状況をどのように受け止め、分析・対策していらっしゃいますか。これは、こども教育課の課長と教育長にもお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

集団発生の学校につきましては、まず感染した子供の保護者の皆さん、それから濃厚接触者として自宅待機を指定された保護者の皆さんには、本当に大変な思いをされたものと思います。学校の集団感染、集団発生につきましては、濃厚接触者の特定を受けなくとも、今回、集団発生した学校については、座席の近さとか、密接度によらなくても感染者が出ていると。つまり感染が、特に小学生については、無症状のまま広がってってしまうというふうなことも、これは断定ではないんですけれども、多くあるのが実情であります。感染が発生して、すぐ学校を閉じたというふうなことで学校閉鎖にはしてるんですけれども、感染のほうは家庭内でも広がるというふうなことで、今回のような集団発生になってしまったというふうに考えております。とにかく、いかに早く対応するかということにかかっていますので、発症した子供が出たときは、すぐに学校を閉じるというふうなことで、感染の広がりを少しでも早く食い止めるように取り組んでいくということでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

取組・対応については、今ほどこども教育課長が話したとおりになんですが、集団発生、一番私どもが恐れていました。ところが、現実起きてしまったわけなんですけれども、濃厚接触者の見極めみたいなのが、非常に学校サイドとしても、最初、学校が判断しなければいけないということで、大変不安がっていました。そこら辺りを鑑みまして、保健所長さんから来ていただきまして、学校

代表者、養護教諭の先生、会場に来れないのは、学校でオンラインで保健所長さんの話を、講義だったんですけども、全員で拝聴することができました。

ウイルスに感染するということがどういうことなのかということ、非常に分かりやすく説明していただきましたし、それから、濃厚接触者の見極めみたいなのはどういうことなのかということも説明いただきました。一番学校現場で分かっているのは、担任の先生です。その子供の周りの人間関係についても、担任がよく分かっています。

したがって、学校の見極めの中の情報を教育委員会にも寄せていただきまして、それを総合的に整理する中で、保健所にも相談する中で、学校の休業、あるいは学級の閉鎖というふうな部分のところを、先を見越して少しでも早く広がらないようにということを優先するような対応を積極的に取ってきたというふうな経緯がございます。

徐々に徐々に減ってきているんですけども、まだまだ気を緩めてはいけません。そんなようなことで、関係課、それから学校の主体的な判断も尊重する中で、これからも対応に積極的に進めていきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今の状況としては、市としては対応がうまくいってる。それともいま一歩、例えば濃厚接触者の特定をもう少し広い範囲で行っていただくか、何か今までの経過を見て、これからの対応をこういうふうに変更していくなど、何か今のところでご予定とかありますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

これまで子供の感染も幾つか出ておりまして、学校のほうの休校、対応のほうも行ってまいりました。そういった事例を検証しながら、それを参考にしながら、これからも濃厚接触者の特定については、基準に照らして行っていきたいというふうに考えております。

ただ、従来の濃厚接触者ですと、すぐにPCR検査というふうな形で検査に回っていたのですが、現状ではPCR検査というのではなくて、1週間程度の自宅待機というふうな形、健康に異常が起きたときに医療機関を受診して、PCR検査を受けるというふうな状況になっておりますので、その辺りの濃厚接触者の扱いについて、十分検討しながら特定を進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

今ほどのこども教育課長の説明に追加させていただきます。

最初の頃は、保護者から学校への情報提供がちょっとスピード感がなかったというふうな経過がございます。それから、学校から教育委員会への情報提供というふうなものも、初期の頃はちょっと緩やかだったふうに思います。そこら辺りが、見直し、改善されたというふうに思っていて、非常に、即おかしいというふうな段階から、ちょっと病院行ってますとかというふうな情報もいち早く学校から、あるいは保護者から学校へ、学校から教育委員会へというふうな部分のルートが確かな道になってきましたので、一番早い正確な情報を収集しやすくなったというふうな部分は、非常に喜んでおります。

いち早い情報によって、先を見て、総合的な観点から判断し、子供たちの休校、あるいは学級閉鎖というふうな部分のところにつながっていくというふうに思いますので、これからもそのようなスピード感を持った形でもって、先を見て対応を積極的に図っていききたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今、教育長のほうから、保護者からの情報提供が迅速になってきたというお話を頂いたんですけども、保護者の皆様からは、実際に自分のお子さんがコロナに感染したときに、ほかの親御さんに伝えるというところでちゅうちょされたというお話もお伺いいたしました。

私にお話しして下さった方は、自分から仲のいいお友達の親御さんに伝えたりだとか、自主的に主体的に伝えていくということをされたそうです。

ただ、それぞれがどう思われるんだろうという不安から、なかなか情報を提供できないということも考えられますので、これはちょっと保護者側にも心のケアだとかが必要だと思うんですけども、学校から保護者の状況まで気を配ったりすることはできるのでしょうか。市民の雰囲気として、もう誰がなってもおかしくない状況だから、責めることがないようにやっといこうよという雰囲気が全体的にあれば、皆さんこういう思いをされることもないと思うんですけども、ちょっとその雰囲気もまだ弱いところがあるのかなというふうには感じるんですけども、市としてどのように、全体の問題になるかもしれないんですけども、どのような雰囲気づくりをしていきますか。少し難しいかもしれないんですが、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

学校の立場から申し上げます。

今回、保護者の方からも自分の子供が感染してしまったんだけどというふうな情報提供があって、それをほかの家庭にもお知らせしたいというふうな思いを学校のほうに伝えてくる保護者もいらっしゃいました。そんなお気持ちについては、本当にありがたく受け止めながら、ただ、今後、

予想される伝えたことによる影響なども判断しながら、寄り添いながら、最良の方法というんでしょうか、一緒に考えるような、同一歩調で考えていくような取組を行っております。

また、心のケアというふうなことで、保護者からの悩みについても、学校あるいは必要に応じてスクールカウンセラー等も活用しながら寄り添っていくというふうなスタンスで取り組んでおるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

一緒に考えていくというお言葉頂いたので、安心いたしました。ぜひ保護者からも相談があった際には、学校側と協力して、一緒に答えを出していくような方向性で進めさせていただきたいなと思います。

それでは、次の質問ですけれども、小学校休業等対応助成金についてです。

この制度は、小学校や保育所などに通う子供が、コロナに感染したり、臨時の休校や休園によって、仕事を休んだ保護者の勤務先が、本来、助成の対象です。通常年次有給休暇とは別の有給の休暇を取得させた企業に対して、休んだ日数の賃金相当額を支給するものです。

厚生労働省は、指摘されていた保護者本人が申請できないという使いづらさを解消しつつ、22日には、対象期間を5月末まで延長する方針を示しました。

昨日の田原洋子議員のSNSでは、6月まで延長との情報共有もございました。私含めですが、国の対応と田原洋子議員からの熱心な情報発信、それを待つばかりではなくて、市からも企業、経営者に呼びかけ、情報が更新された際には、共有を引き続き行う必要があると考えます。また、保護者側にも、この制度の周知がますます必要と考えるので、こども課、こども教育課、商工観光課、それぞれから情報周知をお願いしたいものですが、可能な対応方法を、それぞれにご答弁お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

こども課、こども教育課、それぞれのご質問ですが、まとめたの答弁になるかと思いますが、保護者から、お子さんが濃厚接触者になって出勤できないというご相談は、事実頂いております。相談の内容など、状況に応じて、お子さんの世話をするために出勤できずに有給休暇を取得させる事業所には、そういった補助金があるので、雇用主にご相談してみたいという旨を伝えております。それも今後、引き続き同様に対応してまいりたいと思っております。

また、メール等で保護者に感染者情報を流しておりますので、その際に、メールの最後に補助金にリンクできるようなアドレスを貼り付けて、メールを保護者に送信しております。それも引き続き、行ってまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

商工観光課におきましては、市のウェブサイトへ掲載するとともに、企業宛でのグループメールで周知をしているほか、2月25日と本日になりますけども、商工会議所商工会の会員約1,400社にチラシの配付を行っているところであります。

先ほどもご紹介ありましたように、この助成金の対象期間が6月末まで延長される予定であるというふうに聞いておりますので、今後、これも含めて制度の周知に努めて、積極的な活用を呼びかけてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ご答弁ありがとうございました。

コロナに関する助成金の情報も時間とともに新しい最新の情報が出てきたりだとか、新しい助成の情報が出てきたりだとか、すごく情報もたくさんあるので、その整理だったり共有というのは、その都度というのはすごく難しいのは理解しているんですけども、その都度、市民の皆様には最新の情報が分かりやすく手に入るような配慮をいただければと思います。

最後の質問です。LINEなどのSNSを通じての相談は、先ほど情報の漏えいなど、そういうことが心配されるのでというご答弁を頂いたんですけども、SNSを通じての相談は、気軽に簡単に、小さな悩みでも相談を受け付けることが可能だと思います。ましてや、今コロナ禍でなかなか外出がかなわない今、それぞれが孤立してしまうことを防ぐための有効な手段だと考えております。これはもちろん子育てにかかわらず、子供を対象に、いじめの相談、ひきこもり、家庭内トラブル、心の相談など、幅広い分野に活用が可能です。

しかし、気軽な相談に担当課の職員さんが、きめ細やかに対応してくということが、現実的にできるのかなというふうにちょっと疑問があるんですけども、それは可能なんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

市長答弁のとおり、SNSでの相談の受付というのは、きっかけづくりとして非常に有効な面もありますけれども、やっぱりセキュリティという課題もございますので、答弁のとおりセキュリティの高い手段を検討してまいりたいと。今具体的にはこれだというものを持っておりませんが、より相談しやすい環境をやっぱりつくっていかなければいけないと思いますので、今後ちょっと検討してみたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

SNSの相談の窓口を、例えば市民活動、グループなどに相談機能を事業として委託してはいか  
がかなという提案をしようと思ったんですけれども、その情報の漏えいとかという側面で考えたと  
きに、そういう市民グループに委託するとか業務委託するというのは、可能なんでしょうか。お伺  
いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

隣の上越市では、ご存じかと思えますけれども、そういった相談機能というものも含めてNPO  
法人に上越市が委託していることがあります。糸魚川市でもそういった団体があれば、先ほど情報  
漏えいというようなところもありましたけれども、そういったところも含めて、正式に契約して、  
相談窓口を増やしていくということも考えていかなければいけない課題の一つだというふうに思っ  
てます。

ただ、やっぱりそういった相談窓口を受託していただけるだけのしっかりとした団体であるとい  
うことが、前提になってくるというふうに思います。市内でもそういった子育て団体が、徐々に  
徐々に活動を始めておりますので、そういった団体のご相談に乗りながら、育成といいますか、そ  
ういった面で取り組んでいきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ご答弁の中にもございましたが、市内には既に活動している子育てサークルがございます。その  
活動内容は、お下がり交換会、子育て世帯の必要な情報の提供を主にインスタグラムを通じて行  
うなどです。

活動をSNSで見ているママ、プレママの妊婦さんからは、糸魚川には嫁で来て、友達もおらず  
不安だったが、投稿を見て、子育てが楽しみになった。コロナが落ち着いたら、イベントに出かけ  
たいなど声が寄せられているそうです。

これはまさにSNSを通じてつながり、孤立させない、安心して子育てできるが提供されている  
一例だと思います。

先ほどご答弁の中に、しっかりした団体というお言葉があったんですけれども、このしっかりし  
た団体というのは、その定義を、すみません、教えていただきたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

すみません、私しっかりした団体と申し上げましたが、やっぱりそういった相談を委託する団体

は、当然個人情報扱うというふうに思っておりますので、そういったところの意識というか、決して漏らさないようにというところが必須だというふうに思っておりますので、そういったところをしっかりとというような表現をさせていただきました。

いずれにしろ、市民にとっては相談窓口、気軽に相談できる相談窓口が多ければ多いほどいいというふうに思っておりますので、引き続きそういった団体の発掘といいますか、育成に努めたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

行政と別の気軽な場所に相談の窓口を設けて、支援が必要な方には、行政とつなぐ役割を担ってもらい、仕事として委託することで任意の活動も持続可能になると考えます。ぜひ前向きにご検討ください。

最後に、兵庫県明石市の紹介をさせていただきます。

明石市は、「やさしい社会を明石市から」というキャッチフレーズで、子供を核としたまちづくりが行われております。子育てしやすい、暮らしやすいまちを目指した結果、人口増、税収増を実現しています。

糸魚川市も、ほか自治体の後追いをする姿勢ではなくて、糸魚川市からという気概で市政運営されること熱望いたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

関連質問ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで約10分間の休憩をいたします。再開を2時40分といたします。

〈午後2時28分 休憩〉

〈午後2時40分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。〔13番 和泉克彦君登壇〕

○13番（和泉克彦君）